

「私はソーシャルワーカー」

茨城県介護老人保健施設勤務

毎回ソーシャルワーカーについての動向や、先輩方が書かれたものを拝見して勉強をさせて頂いております。最初にお話を頂いたときは、この素晴らしい会報に私が載ってしまっているのかと不安が大きかったのですが、この機会を与えて下さったことに感謝して、これからのソーシャルワーカー協会の若い力になっていきたいという思いもあり、先輩方のような素晴らしい文章は書けませんのが、新人ソーシャルワーカーとしての思いを素直に書かせて頂くことにしました。

私は20代ですので協会の中では若い会員になるかと思えます。人間としてもソーシャルワーカーとしても知識や経験が少なく、まだまだ駆け出しの未熟者です。これからたくさんの経験と勉強をして、先輩方のようなソーシャルワーカーになれる日を夢見て、毎日仕事をしています。先輩方が初めてソーシャルワーカーとして仕事をされた頃と、今の私が同じかもしれません。その頃のことを、少しでも思い出して頂けたら嬉しく思います。

現在、介護老人保健施設で仕事をしています。最初は支援相談員として仕事をしてほしいとのお話を頂きましたが、法律や介護保険のことなどは多少分かっていても、介護のことが何も分からず何も出来ない私が相談員なんて出来るわけがないと思い、介護の現場であるデイケアからスタートしました。私の施設でも見かけましたし、見学や研修をさせて頂いた施設でもそうでしたが、トイレなどでコールが鳴っていると、「鳴ってるよ！」「早く行ってあげたら！」や、「…さんが徘徊してるよ！」と、介助したり声かけすらせずスタッフに怒鳴るだけの相談員をみました。施設の中での相談員の位置づけは何なのだろう、介護の人より偉いのだろうかと感じることがありました。でも私はそんな相談員にはなりたくない！と強く思ったことを覚えています。実際に介護の現場で私はまるで使い物になりませんでした。送迎、着脱、入浴、排泄介助、食事介助、トランスファー……すべてが口で簡単に言うよりも難しかったです。介護のスタッフに1から教えてもらい体を借りて何回も練習をしました。私の頭には基本すらなく、学校での授業の介護技術は頭を素通りしただけでした。病院や施設で「ご希望があれば何回でもオムツ交換をして！」と言うのを聞くことがあります。とても素晴らしいケアだと思います。そして施設であれば簡単に相談員が言ってしまうことがあると思います。でも、そのオムツ交換がとても難しかったのです。介護のみんなは、1,2回の寝返りで綺麗に真ん中に装着するのですが、私は何回寝返りをしてもらっても、横の位置が決まらない。そのうちに、オムツが背中の方へずれてしまって、上下も左右もうまくはまらない……ということが何回もありました。ご利用者様にも不快な思いをさせてしまいました。自分が介護をして、とても大変であり、素早く綺麗に行くことはすばらしい技術だと感じました。すぐに相談員になってしまったら分からなかったことですし、私も「…して！」と上から物事を言ってしまう相談員になっていたと思います。

デイケアで6年間仕事をして、今はその経験を生かして支援相談員をしています。(生かされているかは不安ですが…自己満足にならないようにしています)支援相談員になり、調整や連絡、相談、苦情対応などの仕事も、現場にいたからこそその分かったり出来ることが多くありました。相談員なのになぜ介護をやるの？介護は相談員には必要ない、私はソーシャルワーカーになるために勉強したのに…などと言う意見も耳にしますし、私も学生時代は少なくともそう思った時期がありました。でも、高齢者の施設でのソーシャルワーカーをする上ではとても大事で必要な勉強であり技術だと思いました。その反面、ご本人様やご家族様とのことで時間を使い、悩むのは当然なのですが、それ以上に施設内の職員間、職種間で悩む時間のほうが多い気がしています。どこの施設でもあることだと思いますが、看護と介護、入所と通所、経営側と現場側…。私自身の経験不足もあり、どのように対応すればよいか分からず施設内のことであっても戸惑うことが多いことも事実です。ソーシャルワーカーとしても人間としても、もっとたくさんの引き出しが持てるように成長していきたいです。

私はまだ結婚もしていませんし、子供もいません。祖父母も元気で父母も仕事をしています。嫁姑関係も経験なく、家族を介護するという大変さも分かりません。相談に来る方は、私のような娘や孫の世代よりは、経験のある相談員やケアマネージャーのほうが安心してたくさんの事を打ち明けられるように思います。経験には頑張っても追いつけません、分からないことや不安なことは無理をして一人で解決しようとせず先輩方に相談して、たくさんの考え方や選択があることを教えて頂いています。そして私も、若い今だからこそ出来ることを精一杯して、全てのお客様を明るく元気にお迎えすることを日々心がけています。ご利用者様やご家族様、相談に来てくださる方から、「こんな男と結婚してはだめよ」「姑がいないところに行きなさい」「私はこんなに苦労したのよ」など、娘として嫁としてのアドバイスを頂くのが楽しみです。一人暮らしの私に、料理の作り方や、掃除の仕方も伝授して下さいます。「結婚して赤ちゃんが出来ても仕事をやめなくていいね、これだけたくさんのばあちゃんたちが交代でみてあげるから」と、早く孫の顔が見たいと言ってくれる方もいます。仕事を通して孫のように娘のように可愛がって頂ける私はとても幸せなソーシャルワーカーだと思います。

今、人間としてもソーシャルワーカーとしても一歩踏み出し、成長したところです。これからどんなソーシャルワーカーになっていくか自分自身楽しみでもあります。何年後かにこの会報を読み返す自分が、今この文章を読んでくださっている先輩方のようになりたいです。先輩方に少しでも近づけるように、ひとつひとつの経験を大切に積み重ね努力していきます。そして、ソーシャルワーカー協会の若く新しい力となっていきます。これからも、ご指導よろしくお願ひいたします。

『人の気持ちは絶対に分からない、だからこそ分かってほしいと思って仕事をします。』

